

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★鈴木牧場・新牛舎応援基金 500255 1口500円で期間中(期間:2024年4月2回～2025年3月4回)は毎週募金できます。
★脱原発と暮らし見直し委員会「12年のまとめ」の印刷カンパ 500256 1口200円で毎週受け付けています。



News Letter

2024年9月2回号 発行:常総生協広報G 2024.8.26

戦争について改めて考える8月

副理事長 都留孝子（歴史講座講師）

国連が「地球沸騰化」という警告を発したのは昨年夏のことでした。容赦ない暑さのなか、戦争について改めて考える8月。NHKで2024年5月「ドキュメント エルサレム（2000年製作）」の再放送がありました。20年以上前の番組でありながら、初めて知ることばかりでした。

映像には、オスマントルコ帝国時代、イスラム教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒が共存していた頃のパレスチナの姿が。キリストが処刑されたゴルゴダの丘の上に建つ聖地「聖墳墓教会」。その鍵を管理するのはイスラム教徒です。12世紀、キリスト教徒の十字軍によって支配されたエルサレムをイスラムの英雄サラディンが奪還したとき、サラディンはキリスト教徒、ユダヤ教徒に信仰の自由を認めました。以来、キリスト聖地の教会の鍵はエルサレムでもっとも古い一族メセイベ家が代々管理してきました。

映像にみる「嘆きの壁」は現在と違い、アラブ人の住居が祈りの壁に接するように建っていました。オスマン・トルコはユダヤ教徒の祈りの場を確保するために、嘆きの壁とアラブ人の住居との間に幅5mほどの礼拝の空間を設け、両者が共存できるようにしました。

ローマ帝国の攻撃によりヨーロッパに離散したユダヤ人は、キリスト教社会から2000年にわたり、迫害を受けてきました。19世紀後半、東欧やロシアでのユダヤ人への集団虐殺（ポグロム）に、シオニズムのリーダーは「ユダヤ人は自分の国をもてば、安心して生活できる」と訴え、エルサレムの別名シオンの丘をめざすシオニズム運動が広がります。世界中のユダヤ人がこの運動に募金し、ヨーロッパからパレスチナへの移住者は、20世紀の初め、20万人を超えました。移住者達は、沿岸部や湿地帯など人の住んでいない土地をアラブ人から買い、土地改良のため世界中から苗木を集めました。オーストラリアのユーカリの木は、沼地を緑地に変えていきました。

1914年、第1次世界大戦。イギリスは中東での石油利権を得るため、オスマン・トルコを攻撃。ユダヤ人の協力を得るため、英外相バルフォアは、ユダヤ人財閥ロスチャイルドに手紙を送り、パレスチナにユダヤ人の故郷をつくることを約束。莫大な資金協力を得ます。戦後、イギリスの公認を得たユダヤ人は国家建設に向け、入植を一挙に進めました。アラブ人の家、畑はなぎ倒され、植樹が進み、森が出現。かつてのアラブ人の村は落ち葉によって跡形もなく消えました。

そして、第2次世界大戦。ナチス・ドイツによるホロコーストで600万人のユダヤ人の虐殺が明らかになると、これに衝撃を受けた世界は、1947年「国連決議」によって、パレスチナの地へのユダヤ人の建国を承認。翌年ユダヤ人は「イスラエル建国」を宣言。これに反発したアラブ諸国がその翌日からイスラエルへの攻撃（第1次～第4次中東戦争）を開始しました。25年にわたる戦争で、アメリカの軍事支援を受けたイスラエルは、国際法上、認められていない地域まで占領しました。このままでは耐えられないとパレスチナ住民は石を投げての抵抗運動インティファダを。

1991年の湾岸戦争では、突然イラクが「アラブの正義のため」といいだしました。アラブの支持を取り付けようとの狙いです。パレスチナ問題は世界の不安定化への導火線。その懸念が1993年アメリカ・ノルウェーの仲介による「オスロ合意」につながり、イスラエルが占領している土地のうち、ヨルダン川西岸地区とガザ地区でパレスチナ人の自治が認められました。ですが、2000年イスラエルの右派シャロン氏が護衛を率い、平和の使者と称して、イスラム

2024年8月・9月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●	○提携・協同・連帯企画●
○「常総っ子応援団」in流星台プレイパーク：夏休み中はおやすみです ○9/21歴史講座 ・9/9東海第二第4回口頭弁論 ・9/28臨時総代会@生協本部	・9/16さようなら原発@代々木公園

教の聖地「岩のドーム」を一周。パレスチナのアラブ人にとって大変な冒涇であり、これを機に暴力の応酬が再燃しました。

ドキュメンタリーでは、政府の高官だった父をもつユダヤ人メロン・ベンベネスティは、アラブ人を追った後の土地にヘブライ語の地名を付けていた父について「正当化しようとは思いません。無論父の仕事によって国が出来たことは確かですし、その功績を裁くことはできません。しかし、それがわたしには後ろめたく重荷でもあるのです」。「聖墳墓教会」の鍵の管理を担うヌセイベ家の当主サリーは「私はパレスチナ人として長年、同じパレスチナ人に、暴力にはなにも価値はない。得るものは何もなく、失うばかり」と語ります。

この問題を放置しておくことは、世界にとっても危険なことで、世界が不安定になれば、私達の生活にも大きく影響します。ですが、欧米に比べ小さい頃から聖書やこうした歴史に親しむ機会のない私達は、なかなかわかりづらいたところがあります。自分がホロコーストの生存者の子孫だったら、ガザ地区で暮らしていたら。まったく想像もできません。ですが、自分たちの暮らしに関わることです。ドキュメンタリーの当事者の声を聞くことで、事実を、そこにいる当事者のことを知らずにきた自分を知ることができました。

新役員からのメッセージ (10)



理事 野口由美子

皆さん こんにちは。

今回監事をさせていただくことになった野口と申します。

私が初めて組合員となったのは、もう 20 年以上前、ワンオペ育児のツールの一つとして食品の宅配を利用したかったためです。しかし常総生協の商品は若い世帯には高額すぎて、すぐにやめてしまいました。

再加入するきっかけは、子供のアトピー性皮膚炎でした。病院に行ってもステロイドを処方され、薬の副作用などを知り、何とか自力で治せないものかと行きついたのが常総生協でした。常総生協の勉強会で、添加物や農薬、合成洗剤の恐ろしさを知ることができ、それらを取り除くことで、アトピーは数年でかなり改善しました。

その時に、口に入るもの、そしてそれらを作り出す空気、海、川、土、そして生き物、一つ一つがつながっており、その各々が健康である必要があるのだと感じました。

大切なことを常総生協でたくさん教えてもらいました。理事も何年かやらせていただきました。

その経験から感じたことはこの生協は、見た目よりも、中身を大事にしている所が素晴らしいということです。

そして、もし何か起こっても誠実に対応してくれる。とにかく一生懸命で熱い。

それは口では簡単に言えることですが、なかなかできないことです。

また組合員の皆さんとお会いし、お声を聞かせていただくのを楽しみにしています。よろしくお願い致します。

ハンガーフリーワールドより 学習会のお知らせ

「世界食料デー」月間2024プレイベント

胡麻から見える食料危機

～ずっと胡麻が食べたい！ 私たちにできることは？～

胡麻和え、胡麻油、セサミクッキー……。日本の食生活に欠かせない「胡麻」。実は99%以上をアフリカなどからの輸入に頼っています。そして、今、胡麻の価格が急騰しています。いったい何が起きているのでしょうか。世界の食料システムについて関心を持ち、NGOで活動する学生たちが、胡麻一筋で製品を作り続けている山田製油の山田康一さんから話を伺います。遠い海の向こうで育ち、私たちの食卓に届く胡麻。その小さなひと粒から、広い世界の食の問題について、一緒に考えてみましょう。

・日時：2024年9月18日（水）19時30分-21時

・会場：オンライン zoom

・参加費：無料

・主催：「世界食料デー」月間2024（特定非営利活動法人アフリカ日本協議会、認定NPO 法人ハンガー・フリー・ワールド）

・ゲスト：株式会社山田製油 代表取締役 山田康一さん

・お申込み：⇒QRコード又はフォームからお願いします

（申込締切：9月18日（水）当日正午）

・問い合わせ先：「世界食料デー」月間2024事務局（wfd@hungersfree.net）



<https://x.gd/vKYnW>

常総生協組合員のみなさん、こんにちは(^^)
今日は、理事会での様子をお伝えしつつ、
新しいコーナー「ハチドリ・レター」について
お知らせしたいと思います♪



6月の総代会のあと、新メンバーによる理事会が始まって、2か月ぐらい経ちました。
最初は自己紹介、でも、のんびりはできなくて、相談したり決めたりしなきゃならないことがたくさんあって、あんまりお互いのことを話す時間はありませんでした。

それでも、7月ぐらいから色々な生協の活動のうち、興味のある活動に手を挙げるにあたって、それぞれの理事さん・監事さんの興味のあることなど、少しずつお互いのことを知ることができてきました。

そうしたら、すごい！どんどん面白そうな話が出てきました。たとえば、戸頭店利用者でお茶にめっちゃ詳しい斎藤さんは、取手で小麦栽培を始めたこと。阿部さんは「ゴンタで遊ぼう！in流星台プレイパーク」での活動を継続できるようにサポートしてくださっていること。藤原さんは、親子二代で組合員さん。お母さんのコース担当者は専務理事の柿崎さん！で、妹さんは北海道でプラスチック問題の映画の自主上映会を開催したとのこと。森さんは、生協のプラスチック利用を減らす取り組みができないかと考えていること。中丸さん（理事長）は、先日、柿崎さんの配送トラックに同乗し、その仕事のハードさを体験し、柿崎さんの仕事への細やかな気配りとキビシさを知ったこと。柿崎さんは、人手不足の折、専務理事であっても週に数回、配送にも回ることに。都留さん（副理事長：歴史講座・講師）は、教師の仕事のほかに難民の方々への支援にも取り組んでいて、東京の教会まで、寄付していただいた農産物や支援物資を届けに行っていること。私、松田も難民の方々と知り合う機会があり、支援をしています。

ほかにも、一度にお伝え出来ないのですが、たくさん話題が出ました。これは、組合員さんみんなにお知らせしたいな！と思いました。それに、生産者さんや職員さん、組合員さんからも色々なお話が聞けそうです。そんなお話を繋ぐコーナーを、JOSO News Letterの中につくれたらいいな、という気持ちになりました。

それで、なぜ「ハチドリ・レター」かということ、こんな本があるからです。

「辻信一『ハチドリのひとしずくいま、私にできること』/ 光文社



この本は、南米の先住民族に伝わるお話だそうです。
動物たちの住む山に、山火事が起き、みんな逃げ出します。
ところが、小さなハチドリのクリキンディは、ひとり、嘴（くちばし）に水をふくんで、火の上に落としています。
動物たちは笑います。「そんなことをして何になる」と。
クリキンディは答えます。
「私は、私にできることをしているだけ」と…。
世界の課題に取り組もうとすると、私たちは無力感にうちひしがれてしまうことがあります。でも、もし仲間が増えたら？ なにか、いい方向へ進めるかもしれない。
第一、仲間がいるって知ると嬉しい！ ですよね。
常総生協に関わる「ハチドリ」さんたちの活動や想いを「ハチドリ・レター」でお伝えしていきます♪
（今回の担当は、松田ミカでした^^）



特集 : 配達の現場から (トラック同行 : 理事長・中丸晴子)

気温は35℃ですが、アスファルトの照り返しで、それ以上の暑さを感じます。

だいたい本部を出発するのは7:45。
千葉に向かう時には、7:30出発とのこと。

朝早くから次々出勤の職員の皆さん。まず2階で、ラジオ体操第1。準備体操を終えると今日の「欠品情報」の確認。そして、昨日の配送での「ヒヤリハット」ポイントの情報共有。今日一日の安全運転を再確認。そして仕上げは壁に掲げられた『五大用語』の唱和。

——五大用語——

おはようございます。
少々、お待ちください。
お待たせ致しました。
申し訳ございません。
ありがとうございます。
「お電話ありがとうございます。
常総生協〇〇です。
今日も元気に頑張ります!」

7:45。常磐道「谷和原IC」から高速に。
「土浦北IC」で降りました。

8:30頃からつくばでの供給の仕事がスタート。この日回るのは約60件。今回のコースは、それぞれの供給地点が離れているため、もし、お届けした商品に間違いがあったら大変です。

だんだん日が高くなり、いっそうじりじりと暑くなるなかで、トラックを走らせては、組合員のお宅の前で一時停止。荷台で通い箱を確認しながらの作業。



←スマホでお届け商品の確認
作業中

荷台に積まれた通い箱の中には商品がすでにセットされていますが、冷凍品・牛乳は組合員の家に着してから、専用の大きな冷凍・冷蔵ボックスから取り出し、箱のなかにセットします。

空箱の回収。今週お届けの箱をご自宅ドア近くの日陰に設置。蓋が風で飛ばないように、ガムテープで留めたり、重石を置いたり。

日頃、在宅のご家庭が、たまたま不在だと、「何時頃、ご自宅に戻るだろう?」などと想像しながら、保冷剤の量を決めていくそうです。スマートフォンの端末で、商品に間違いがないか再度確認します。

この配達の合間の昼食は...柿崎さんは手作りおにぎりで手早く済ませていました。そういえば午前中にシュークリームを。甘い物を食べないと、力が出ないとのお話。「かりんとう」が原動力とのこと。

暑い中、一軒一軒、常に組合員の身になっての、気を配る作業。

この日、60件目の配達が終わりと、生協に戻ったのは4時半。これからデスクワークに取りかかるとのことでした。

.....
毎週1回、どのように商品が届けられているのか知りたくて、思い切って同行させていただきました。貴重な体験でした。このレポートを通じ、組合員の皆さんが常総生協をより身近な存在に感じてくだされば、と思います。(中丸)